

令和2年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金並びに
鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

令和2年3月27日
(一社)日本アルミニウム合金協会

令和元年度の日本経済は、海外経済の減速等を背景に外需が弱いものの、雇用・所得環境の改善等により、内需を中心に穏やかに回復していたが、消費税増税後の自動車の国内販売や年末からの四輪車の輸出が落ちこんでおり、弱さが一段と増した状態が続いている。

このような経済環境の中で、当アルミニウム合金業界においては、海外経済の減速による我が国の自動車メーカーの海外生産の減少により、主力の自動車向け鋳物・ダイカスト需要が減少し、令和元年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要は1,609,200トン(対前年度比95.1%)が見込まれる。

このような状況の中で、令和2年度アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを次のとおり策定した。

- (1) 鋳物・ダイカスト向け二次合金地金需要については、国内自動車生産が減少するとともに、海外生産用部品も減少しすることから、減少することが見込まれる。
- (2) 圧延向け二次合金地金・二次地金需要については、飲料用アルミニウム缶需要等で多少の増加が見込まれるものの、総じて横ばいが見込まれる。
- (3) 鉄鋼・その他向け二次合金地金・二次地金需要については、国内粗鋼生産が前年度比で横ばいと予想され、横ばいが見込まれる。

以上の状況から令和2年度のアルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通しを、1,575,600トン(対前年度比97.9%)と策定した。

また、令和2年度鋳物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通しは、282,100トン(対前年度比97.2%)が予想される。

なお、新型コロナウイルスについては、令和2年度末以降の需要に大きな影響が生ずることが見込まれるが、本需要見通しにおいては考慮に入れていない。

したがって、本需要見通しと実際の需要との間には、乖離が生ずる見通しであるが、新型コロナウイルスの影響の大きさを見極める上でも有用と考えて公表する。

令和 2 年 度

アルミニウム二次合金地金・同二次地金需要見通し

令和 2 年 3 月 2 7 日

(一社)日本アルミニウム合金協会

(単位：トン)

項 目	平成 3 0 年度	令和元年度実績		令和 2 年 度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	347,646	335,700	96.6	325,400	96.9
ダイカスト	1,025,501	957,700	93.4	934,400	97.6
圧 延	206,669	206,400	99.9	206,400	100.0
鉄鋼・その他	112,900	109,400	96.9	109,400	100.0
計	1,692,707	1,609,200	95.1	1,575,600	97.9

注 1) 輸入地金を含む。

注 2) 平成 1 4 年 1 月より、経済産業省統計の統廃合があり、鉄鋼・その他は当協会推定値となっている。

令和 2 年 度

鑄物・ダイカスト用アルミニウム一次合金地金需要見通し

(単位：トン)

項 目	平成 3 0 年度	令和元年度実績		令和 2 年 度	
		見 込 み	前年度比%	見 通 し	前年度比%
鑄 物	193,577	192,100	99.2	186,300	97.0
ダイカスト	100,138	98,000	97.9	95,800	97.8
計	293,715	290,100	98.8	282,100	97.2

注 1) 輸入地金を含む。